

複式5・6年 国語科学習指導案

Ⅲ組 第5学年 男子4名 女子4名
第6学年 男子3名 女子5名 計16名
指導者 石川 雅 仁

- 1 単元 要旨をとらえよう (教材「サクラソウとトラマルハナバチ」光村5年上)
文章を読んで、自分の考えをもとう (教材「生き物はつながりの中に」光村6年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

この期の子どもたちは、「段落のつながりに気をつけて読もう」で中心となる語や文に注目して要点をまとめ、段落相互の関係を読み取る能力を身に付けている。また、事実と意見との関係を考えて文章を読もうとするとする態度も身に付けている。さらに、筆者の考えを読み取り、自分の考えを発表したいという願いを持っている。

そこでここでは、各段落の要点や段落相互の関係から要旨をまとめる能力や自分の意見を相手に伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「要旨をとらえよう」(教材「サクラソウとトラマルハナバチ」)を設定した。

この学習は、代表的な例を基に要旨をとらえ、自分の考えを説明しようとする「文章を読んで、自分の考えをもとう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「サクラソウとトラマルハナバチ」は、サクラソウやトラマルハナバチを取り巻く生き物の関係を基に、自然との共生・共進化を題材にした説明文である。自然を守るためには、環境全体の「つながり」を守っていくことが大切であるということに気付かせてくれる。また、本教材は、「問題提起」、「問題の解明」、「まとめ」という大きな三つのまとまりが明快な構成になっているため、接続語や文末表現を手がかりに文章構成をつかみ、要旨をとらえるのに適した教材である。

そこで本単元では、**文章構成をつかみ、筆者は何を伝えたいのかを読み取り、要旨をとらえさせ、報告文にまとめることを目的とする。**

具体的には、まず異学年合同発表会を終末段階に行うことを確認し、教材文を使った学習の必要感や、単元への興味・関心を高め、それぞれの学年の目標を設定する。

次に、それぞれの教材を学年別に読み取らせていく。

ここではまず、教材文を通読し、文章の概要をとらえさせる。そして、各段落の要点の読み取りや主張を支える根拠、理由付けの仕方などから文章構成をつかんだ上で、要旨をとらえさ

(第6学年)

この期の子どもたちは、「要旨をとらえよう」で要旨をまとめる能力を身に付けている。また、読み取ったことを基に、自分の考えを深めたいという態度も身に付けている。さらに、自分の考えを相手が納得するように工夫して説明したいという願いを持っている。

そこでここでは、要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらかみ能力や自分の考えの説明の仕方を学ぼうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「文章を読んで、自分の考えを持とう」(教材「生き物はつながりの中に」)を設定した。

この学習は、代表的な例を基に自分の考えをはっきりさせ、発信していく「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」の学習へと発展するものである。

教材「生き物はつながりの中に」は、ロボットと本物の犬を比較しながら、生き物の特徴について述べた説明文である。生き物は、時間的・空間的なつながりの中にいて、一つの固体としたの「つながり」の中で生きる存在であることに気付かせてくれる。また、本教材は、「問題提起」、「問題の解明」、「まとめ・筆者の主張」という文章構成になっているため、語句の使い方や文末表現を手がかりに筆者の考えの軽重や表現の工夫がつかみやすいため、筆者の考えについての自分の考えをもたせやすい教材である。

そこで本単元では、**要旨をとらえさせた上で、筆者の考えに対する自分の考えを意見文としてまとめることを目的とする。**

具体的には、まず異学年合同発表会を終末段階に行うことを確認し、教材文を使った学習の必要感や、単元への興味・関心を高め、それぞれの学年の目標を設定する。

次に、それぞれの教材を学年別に読み取らせていく。

ここではまず、教材文を通読し、文章の概要をとらえさせる。そして、各段落の要点の読み取りや主張を支える根拠、理由付けの仕方などから文章構成をつかんだ上で要旨をとらえさ

せる。その後、これまでの学習を基に、自分で選んだ自然にかかわる文章の要旨を報告文としてまとめさせる。

さらに終末では、まとめたものを異学年で発表し合い、意見交換を行わせ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせたい。

なお、学年別指導の際には、ガイドを中心とした話し合いを行わせ、学びを深める「学び方」を発揮させ、考えが高まるようにしていきたい。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習についてどのように受けとめ、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は次のとおりである。(数字は、人数を示す。)

第5学年	第6学年
① 初発の感想 ・ 「つながり」への着目(4) ・ サクラウとトマルハバチの関係への着目(2) ・ 人間の環境破壊への着目(1) ・ トマルハバチの生態への着目(1)	① 初発の感想 ・ 生き物の特徴への着目(4) ・ 「つながり」への着目(1) ・ 筆者の述べ方への着目(3)
② 要旨の理解 ・ 知っている(4) ・ 知らない(4)	② 要旨の理解 ・ 知っている(7) ・ 知らない(1)
③ 要旨の読み取り ・ 十分(3) ・ 不十分(5)	③ 要旨の読み取り ・ 十分(0) ・ 不十分(8)
④ 文章構成の理解 ・ 内容から構成を理解している(1) ・ 「問題提起—問題の解明—まとめ」の構成を理解している(4) ・ 理解していない(3)	④ 文章構成の理解 ・ 内容から構成を理解している(0) ・ 「問題提起—問題の解明—まとめ」の構成は理解している(8) ・ 理解していない(0)
⑤ 筆者の考えに対する自分の考え ・ 賛成(8)	⑤ 筆者の考えに対する自分の考え ・ 賛成(7) ・ 反対(1)
⑥ 難語句 ・ 生活周期	⑥ 難語句 ・ アミノ酸(2) ・ タンパク質
⑦ 自然に関して調べたいこと ・ 宇宙のはじまり ・ 光の速さ ・ 生物の進化 ・ どのようにして地球はできたか	⑦ 自然に関して調べたいこと ・ 人間の心理について ・ どうして自然は癒されるのか ・ 木はどうして生えるのか ・ 温暖化等の地球の変化
⑧ これまで読んだ自然にかかわる読みもの ・ 図鑑(4) ・ 百科事典(1) ・ フェアブル昆虫記(1) ・ よく分からない(2)	⑧ これまで読んだ自然にかかわる読みもの ・ 図鑑(2) ・ 本(2) ・ よく分からない(4)

自然の「つながり」という言葉に着目している子どもが多く、要旨をとらえる上でのキーワードに気付いている。(①)しかし、要旨とは何か分からない子どもが半数おり、要旨の定義付け、まとめ方の指導が必要である。(②③)また、教材の文章構成の把握が不十分であるので、各段落の要点をおさえ、図を用いて構成を理解させ、その上で要旨をとらえさせたい。(④)ほとんどの子どもが筆者の考えに対して自分の考えを持てるので、自分の考えを添えて、要旨を発表させたい。(⑤)また、難しいと感じた言葉が少ないので、国語辞典等を自分で引かせて読み進めさせたい。(⑥)子どもたちは自然にかかわることについて興味があるが、そのような読書経験が少ない。読み物を準備して学習に取り組みさせたい。(⑦⑧)

(4) 指導上の留意点

単元の展開に当たっては、互いの考えが高まるように同学年や異学年の交流を大切にしながら指導していきたい。

ア 筆者の考えを読み取らせるために、「なぜ野生のサクラソウは、絶滅の危機におちいったのだろうか」という課題意識をもたせながら読み

せ、それを基に自分の考えをもたせる。その後、これまでの学習を基に、自分で選んだ自然にかかわる文章についての意見文をまとめさせる。

本教材は子どもたちにとって文章構成が分かりにくく、文章構成を内容からおさえるのが難しい。(④)また、子どもたちは、要旨の意味を理解していても、実際に要旨をまとめることができない。(②③)そのため、要旨をまとめる際のキーワードである「つながり」を意識できた子どもが少なかった。(①)また、子どもたちは筆者の考えに対して自分の考えを持っているので、自分の考えが相手にしっかりと伝わる説明の仕方を身に付けさせたい。(⑤)また、難しいと感じる言葉が少ないので、国語辞典等を自分で引かせて読み進めさせたい。(⑥)子どもたちは自然にかかわることについて興味があるが、そのような読み物に出会った経験が少ない。自分で要旨をまとめさせる際には、読み物を準備する必要がある。(⑦⑧)

ア 筆者の考えに対する自分の考えを持たせるために、「生き物であることは、本当に素晴らしいことなのだろうか」という課題意識をも

進めていくようにする。

イ 要旨を的確にとらえさせるために、各段落の中心文から要点をとらえさせ、接続語や文末表現に着目させながら、つなげさせていく。

ウ 自分の読みの深まりを振り返らせ、学習に対する成就感や達成感を味わわせるために、自分で選んだ文章についての報告文や意見文の発表を通して、同学年や異学年で交流させる。

エ 子どもの発達段階や実態から、単元を通して学年別指導を行う。間接指導時には、ガイド学習を行い、相手に分かりやすい「伝え方」、自分と相手の考え方を比較するための「聞き方」、「問い返し方」を発揮させ、吟味させることで考えが高まるようにしていきたい。

たせながら読み進めていくようにする。

イ 自分の考えを明らかにさせるために、キーワードを明らかにして要旨をまとめさせ、筆者の考えと自分の考えを比較させる。

3 目標

(1) 自然界の事象に関心をもち、筆者の考えを明らかにしようとしながら進んで読もうとすることができる。

(2) サクラソウとトラマルハナバチのかかわりを中心とした複数の因果関係を考えて、内容のまとまりを図に表しながら考えることができる。

(3) ア 文章構成を把握し、読み取った内容から要旨をとらえることができる。

イ 各段落の要点やそれを基にとらえた要旨を、相手が分かるように報告文にまとめることができる。

(1) 自然界の事象に関心をもち、筆者の考えに対しての自分の考えを明らかにするために読もうとすることができる。

(2) 生き物の特徴を代表的な例から推論する理由付けをしながら図に表してまとめ、生き物に対する自分の考えをもつことができる。

(3) ア 文章構成に気を付けて筆者の考えを読み取りながら、自分の考えを持つことができる。

イ 筆者の意見に対する自分の考えをはっきりさせ、自分の考えが相手に伝わるように意見文にまとめることができる。

4 指導計画（全8時間）

過程	学習課題・主な学習活動（第5学年）	学習課題・主な学習活動（第6学年）
つかむ・みとおす①	<p>1 初発の感想から、単元目標の設定を設定する。</p> <p>自然っておもしろい。調べてみたいな。</p> <p>生き物はつながっているんだな。すばらしい。</p> <p>生き物の特徴は筆者が主張している他にあるかな。さがしてみたいな。</p> <p>自然にかかわる不思議さや問題点を調べて、</p> <p>要旨をとらえて</p> <p>要旨をとらえ、自分の考えを</p> <p>同学年や異学年の友達に発表しよう。</p>	
しらべる③	<p>2 教材文を読み取り、報告文にまとめる。</p> <p>(1) 形式段落ごとの要点をまとめる。</p> <p>(2) 要点から段落構成をとらえ、要約する。</p> <p>(3) 要旨をとらえ、報告文にまとめる。(本時)</p>	<p>2 教材文を読み取り、意見文にまとめる。</p> <p>(1) 形式段落ごとの要点をまとめ、段落構成をとらえる。</p> <p>(2) 段落構成を基に要約し、要旨をとらえる。</p> <p>(3) 自分の考えをはっきりさせ、意見文にまとめる。(本時)</p>
ふかめる③	<p>3 自分で選んだ文章の要旨をとらえ、報告文にまとめる。</p> <p>(1) 文章の選定し、要旨をとらえる。</p> <p>(2) 報告文にまとめる。</p> <p>(3) 同学年の友達と交流し、報告文を修正する。</p>	<p>3 自分で選んだ文章の要旨をとらえ、自分の考えを意見文にまとめる。</p> <p>(1) 文章の選定し、要旨をとらえる。</p> <p>(2) 要旨を基に、自分の考えを意見文にまとめる。</p> <p>(3) 同学年の友達と交流し、意見文を修正する。</p>
ふりかえる・いかす①	<p>4 合同発表会をして、意見や感想の交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの観点の明確化 異学年による交流 感想の交流 要旨をとらえたり、自分の意見をまとめたりする際に大切なことの発表 <p>自分考えを中心に発表したいな。</p> <p>要旨をまとめると、筆者の言いたいことがはっきりするね。</p> <p>自然のおもしろさにもっと触れたくなった。</p> <p>自分の考えが伝わったかな。</p>	

5 本時(4/8)

(1) 目標

段落相互の関係や要約文を基に、生き物はつながりあって生きているという筆者の考えを要旨としてまとめることができる。

要旨を基に、筆者の挙げた事例と自分の体験とを関係付けながら筆者の問いに対する自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開に当たって

学年別指導の中で、ガイドの司会よる話し合いを中心とした授業を行う。5年生は要旨をまとめるところを、6年生は自分の考えをまとめるところを話し合わせる。その際、小黒板等を用いて、意見の交流が活発に行われるような話し合いになるように板書の仕方を工夫する。

また、学習の終末段階では、「聞き方」や「伝え方」、「問い返し方」を称賛・価値付け、相互に考えを吟味したことでより高まった考えを出すことにつながったことに気付かせたい。

(3) 実際

主な学習活動（第5学年）	教師の位置	主な学習活動（第6学年）
<p>1 前時を振り返り、学習課題を確認する。</p> <p>筆者の考えをまとめるためには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>2 学習進行計画表を基に、学習の進め方を確認する。</p> <p>① 筆者の考えをまとめる。(一人調べ)</p> <p>② まとめたものの交流を通して、まとめ方を話し合う</p> <p>3 筆者の考えをまとめる。</p> <p>4 まとめたものの交流を通して、まとめ方を話し合う。</p>	<p>(分)</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>1 前時を振り返り、学習課題を確認する。</p> <p>自分の考えをまとめるためには、どのようにすればよいのだろうか。</p> <p>2 学習進行計画表を基に、学習の進め方を確認する。</p> <p>① 自分の考えをまとめる。(一人調べ)</p> <p>② まとめたものの交流を通して、まとめ方を話し合う。</p> <p>3 自分の考えをまとめる。</p> <p>4 まとめたものの交流を通して、まとめ方を話し合う。</p>
<p>【段落構成から】</p> <p>【まとめ】</p> <p>このように つまり</p> <p>生き物はみなつながっているのだから、生き物全体を守っていかなければならない。</p> <p>段落構成の【まとめ】には筆者の言いたいことが書いてあったよ。</p> <p>【要約から】</p> <p>(要約例) サラウワは、数が少なくなり、絶滅が心配されている。花が咲いてもタネが実らない。実は、サラウワの受粉にはトマルハチが深く関わっているが、このハチ自体もえさになる花や巣作りに必要な場所がなくなり、生きていけなくなっている。生き物はつながっている。サラウワを守るために生き物全体を守っていかなければならない。</p> <p>要約は「事実」と「意見」でできていて、「意見」が要旨になるんだね。</p>	<p>12</p> <p>8</p>	<p>筆者の考えと自分の考えを比べて、似ているところや違うところを探せばよいのね。</p> <p>筆者の意見と自分の意見を並べるときには、「以上のような筆者の考えに対して」や「しかし、私は次のように思う。」などの書き出しを使うと分かりやすいね。</p> <p>〇さんは身近な事例を挙げているから、とても分かりやすいです。</p> <p>△くんのまとめたものは、筆者の問いに対する答えだから、筆者の考えから外れていないね。</p>
<p>(要旨例) 生き物は互いにつながり合っているのだから、生き物全体を守っていかなければならない。</p> <p>5 話し合ったことから、学習のまとめをする。</p> <p>筆者の考えが書かれているところを見つけ出し、大事な言葉を探してまとめればよい。</p> <p>これを「要旨」って言うんだね。</p> <p>6 要旨を基に、報告文を書いて、同学年で交流する。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、自分や友達のがよかったところを発表し合う。</p>	<p>8</p> <p>6</p> <p>3</p>	<p>(意見文例) 先日、幼い頃の私が映ったVTRを見た。今の私より小さな私が映っていたが、顔の輪郭や歩き方などから、まぎれもなく自分自身だと確信した。また、筆者の言うように、私はこれからも自分自身であり続けるたった一つのかげがえのない存在であると改めて感じた。時間をこえてつながっている自分自身をこれからも大切にしていきたい。</p> <p>5 話し合ったことから、学習のまとめをする。</p> <p>筆者の考えに対する自分の立場をはっきりさせ、事例や体験を踏まえてまとめればよい。</p> <p>6 まとめたものを基に、意見文を書いて、同学年で交流する。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、自分や友達のがよかったところを発表し合う。</p>